

No.176

2015.
3.31

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111

気づきを促す関ヶ原 ～歴史を生きる力に～

草野 道雄（関ヶ原町歴史民俗資料館 館長）

「この町まるごと古戦場！どこへ行く？」

まずは歴史でしょ。」 関ヶ原ならではの資料館

関ヶ原町へは、関ヶ原合戦にかかわる史跡探索に多数の方にお越しいただいています。関ヶ原町歴史民俗資料館では、「この町まるごと古戦場！どこへ行く？まずは歴史でしょ。」とよびかけ、関ヶ原合戦を知る資料館としての要望にお応えしています。なかでも大型のジオラマは、各陣の動きを電光で示すもので合戦当日の動きがわかると好評です。そして1階展示室にて、陣形図や文書、甲冑や刀、鉄砲、そして合戦図屏風などの常設資料をご覧ください。ここでは当館蔵の出土品や屏風絵から関ヶ原を身近に感じていただきたいと思います。2階ではその年ごとに企画展を開催しています。今年度は『関ヶ原合戦にみる黒田と竹中～二兵衛の息子黒田長政と竹中重門～』展でした。



「もうひとつの関ヶ原 壬申の乱！えっここで？」

もうひとつの資料館 不破関資料館

672年、天智天皇の弟の大海人皇子軍と、天智天皇の子の友友皇子軍が皇位の継承などをめぐって争った壬申の乱。その初戦「玉倉部邑の戦い」は関ヶ原の西、藤古川を挟んで繰り広げられました。一カ月後、「瀬田橋の戦い」での最終決戦に勝利した大海人皇子は、天武天皇となって不破の関を設けます。敗れた友友皇子の首は藤古川の西の自害峰に眠っていると伝えられています。不破関資料館では、今年度新たな散策マップを用意し、伝承や発掘調査をもとに壬申の乱や不破関を紹介しています。

「気づきを促す関ヶ原 地域の歴史は今を生き抜く力」

この町まるごと資料館

その1 戦後70年の平和遺産 玉の火薬庫

大正期に東洋一の火薬庫といわれた「名古屋陸軍兵器補給廠」がつけられました。今も、周囲にめぐらされた境界柱、鉄柵、土塁などが点在し、その内に多数の火薬倉庫、衛門の門柱、見張りの立哨台などがあり当時の様子を今に伝えていま

す。資料館の前庭には火薬庫に通じる陸軍橋の欄干が移設されています。ふたつのいくさ場とあわせ平和遺産とも思えます。(27年7月 開催予定)

その2 歌枕のさと関ヶ原 班女と野上宿

関ヶ原は東西南北の交通の要所です。関ヶ原の主な街道と宿には、東山道のころの山中・野上宿、中山道の宿場である今須・関ヶ原宿、越前につながる北国街道には玉宿があり伊勢街道もありました。現在もその面影を残しつつ、行き交う人と里人の間に生まれた歌物語を伝える常盤（義経母）の墓、与一（義経と対決した関ヶ原の郷士）の宮、班女（世阿弥の能）の観音堂などがあり、芭蕉などの歌碑とともに関ヶ原は「歌枕のさと」といえます。

関ヶ原町歴史民俗資料館では、関ヶ原の街道の魅力を「歌枕のさと 関ヶ原」と題して、古人の心にふれる関ヶ原の街道の物語を紹介し、資料館の2階、中山道展示室では古文書や高札、そして昭和61年以来、約30年ぶりに班女の像や姿絵を公開し「班女と野上宿」展を開催しています。(27年5月末まで)

その3 「貴家のお雑煮は丸餅？角餅？」

味の分かれ目 関ヶ原

日清食品様より、先月こうした回答をいただきました。「どんぶりタイプの一般用商品は、関ヶ原を境界線とし、ここより東（東：愛知県、岐阜県、三重県を含む）を東日本用、ここより西（福井県、富山県、石川県を含む）を西日本用として販売しております。」関ヶ原は、天下だけではなく味や生活の分かれ目となっています。とはいえ近年の生活様式の変化は激しく食生活も変化してきました。つきましては隣り合う柏原歴史館と伊吹山文化資料館と三館で今月改めて調査をさせていただきます。結果をお楽しみに。(27年10月 開催予定)

●施設情報●

〒503-1522

岐阜県不破郡関ヶ原町大字関ヶ原894-28

TEL/FAX (0584) 43-2665

JR関ヶ原駅から徒歩8分、名神関ヶ原ICから車で5分。

休館：毎週月曜日、12月29日～1月3日

第62回全国博物館大会に参加して

期 日：平成26年11月19日(水)～21日(金)

会 場：三重県総合文化センター等

第62回全国博物館大会が、「多様化する博物館－対話と連携で未来を探る－」をテーマとして、平成26年11月19日～21日の三日間にわたり三重県津市の三重県総合文化センターを中心に開催され、全国から400余名が参加しました。今大会は、大会の日程を三日間（第3日目は施設見学）とし、また全国博物館フォーラムをプログラムするなど、新たな試みが行われ、5月に開館したばかりの三重県総合博物館(MieMu)の姿に通じる意欲的なものとなっていました。

第1日目は、開会式及び全体会議と、鈴木英敬三重県知事による「日本の博物館／文化について、知事として思うこと」と題した基調講演、新たな試みである全国博物館フォーラムが行われました。基調講演では、三重の文化を育んだ多様性とアイデンティティの紹介、それにもとに、開館成ったMieMuに託された思いが語られました。「自分が現在置かれた状況により感じ方は変わるもので、博物館は何度も訪れる場所である」との結びの言葉が印象的でした。

全国博物館フォーラムでは、半田昌之日本博物館協会専務理事の司会で、林良博全国科学博物館協会理事長、山梨俊夫全国美術館会議副会長、久留島浩全国歴史民俗系博物館協議会・国立歴史民俗博物館館長、荒井一利日本動物園水族館協会会長、谷合俊一文部科学省生涯学習政策局社会教育課長、早川俊章文化庁文化財部美術工芸課長を講師に迎え、それぞれの立場から現在の課題とこれからの展望について話がありました。

林理事長は、博物館経営について、厳しい財政状況から独立行政法人化への移行を目指す動きに対して、今後、単に「来館者」だけではない「社会教育の複眼的な評価基準」を用意する必要があると指摘されました。これは、そのような動きをとらない博物館を含め全体に共有できる課題と考えられます。久留島館長からは、大規模災害への対応とともに全国規模のデータベース構築が大きな課題であること、荒井会長からは、動物園水族館における指定管理者制度導入の実績から、制度そのものを巡る課題が浮き彫りになりつつあることが示されました。山梨副会長は、学芸員の日常業務での海外との交流が少ないことが課題であると指摘され、ASEMUS（アジア・ヨーロッパ博物館ネットワーク）について紹介がありました。谷合課長からは、博物館は地域振興・活性化などを担う重要な拠点としての発展が期待されるとの考えが示され

ました。早川課長からは、文化庁における美術館・歴史博物館への主な支援策と、文化財の保存・活用のための補助事業などの紹介がありました。また、2020年の東京オリンピックはスポーツのみならず、日本の文化を発信していく場としてとらえ、世界博物館大会（2019）の招致に向け、協会や国をはじめとする関係機関が連携して活動していくことの必要性が指摘されました。

第2日目は午前中にシンポジウム「今、求められる新しい博物館像」が、午後からは3つの分科会が行われ、最後に全体会議及び閉会式となりました。

シンポジウムでは、佐々木英彦東京都美術館交流係長・学芸員が「東京都美術館リニューアルオープン後の取組」と題し、「とびらプロジェクト」をはじめとした取り組みについて、樋口尚樹萩博物館学芸専門監が「市民と協働する博物館運営」と題し、萩博物館が目指す「まちじゅう博物館」の現状と今後の課題について、富本真理子岐阜女子大学文化創造学部特別客員教授が「三重県ましかど博物館とその意義」と題し、三重県ましかど博物館の意義と役割について、それぞれ話題提供がありました。その後、会場も交えて、活発な議論が交わされました。

二日間を通して、印象に残ったのは、今後、博物館が地域とどのように向き合っていくのか、地域の中でどのような役割を果たすかという点が、大きな課題として共有されていることです。私が参加した分科会2では、観光やまちづくりがテーマでしたが、博物館を一つの核として地域住民とともに地域おこしに取り組んでいる事例の発表がありました。大会実行委員長の布谷三重県総合博物館館長も締め括りとして話をされましたが、博物館だけで見ていると厳しい財政状況などから「冬の時代」の印象がありますが、地域や大学など博物館に関わる人の姿を見ると決してそれだけではない、今後に向けた明るい動きがあることが実感されました。



(岐阜県博物館 近藤大典)

第141回岐阜県博物館協会公開講座報告 「ダンボール工作でからくり絵本をつくろう」

期 日：平成26年8月24日(日)
会 場：こども陶器博物館
講 師：村田祐一郎氏（造形作家）
参加者：47名（20組）

このワークショップは、開催中の展覧会「ディック・ブルーナ展」との関連で、「絵本」を自分で作り創作の過程を追体験すること、そして仕掛けを加えた「からくり絵本」として工作の楽しみも加えた企画として行われました。講師には、ダンボールを使ったさまざまな工作ワークショップを手がける造形作家の村田祐一郎氏を迎え、親子20組ほどが参加しました。

まず、先生があらかじめ切ってきた土台の部分や、からくりの仕掛け部分に当たる丸いパーツなどを各参加者に配り、先生の指導で順番にパーツをのりづけしたり、穴に支柱を通したりして、からくり絵本の土台を完成させていきました。出来上るにつれ、「ここが動きにくい。どうして？」という風に先生に聞く子や、早速お話を考えて絵を描き始める子など、意欲的に工作に取り組む様子も見られました。

絵本本体は、絵をまず描き、その中に一部、円形の穴が開いた窓があって、中に更に絵が描けるようになっています。中の絵が描かれた歯車を動かすと、窓の中も動いて切り替わっていくという仕掛けです。これを利用して、「夏の思い出」というタイトルでたくさんの思い出が出てくるお話を作ったり、ミッフィーの絵を描いてオリジナルのお話を作ったりと、たくさんの個性的な絵本が生まれました。

当館のほとんどのワークショップでは、親御さんも一緒に子供の工作を手伝って作り上げていきますが、まずベースとして当事者（子供たち）の想像力を阻害しない程度の難易度を想定し準備をしています。そのような観点から、今回は、切り貼りの要素のほか、「パーツを組み合わせてひとつの構造物を作り出す面白さ」を味わってもらえる流れになっていたと思います。組み立てる過程で、なぜ、この部分が動くのか、どうしてパーツに凹凸が必要なのか、などの「モノが全体の中の一要素として働く意味」が自然と理解できることも、大きな学びのひとつだと感じました。親さんが子供と一緒に夢中で作っている様子もほほえましく、各テーブルで賑やかに作業が行われていました。

（中山道広重美術館 福田 訓子）



第142回岐阜県博物館協会公開講座報告 「三木氏の城・金森氏の城 戦国城館の発掘調査」 関連企画研究集会・講演会

期 日：平成26年10月26日(日)
会 場：下呂ふるさと歴史記念館
講 師：中井均先生
参加者：60名

下呂市の公立博物館相当施設である下呂ふるさと歴史記念館の前身は、昭和47年（1972）に開館した中部山岳考古館である。平成23年（2011）3月には、常設展示室を全面的にリニューアルし、5ヶ町村合併後の下呂市の中核的博物館として新たな役割を担っている。

さて、この度、岐阜県博物館協会から助成を頂き企画したのが、下呂市内の中近世移行期の戦国城館を対象とした「三木氏の城・金森氏の城 戦国城館の発掘調査」展と研究集会・記念講演会である。企画の対象である桜洞城跡は平成21年度に本発掘調査を実施し、県指定史跡萩原諏訪城跡は平成24年度・25年度に範囲確認調査で石垣斜面部を発掘している。発掘調査報告書も刊行され、市民に公

開する最適な時期であった。

展示以外の会場は博物館内にこだわらず、テーマにふさわしい地で、地域住民が慣れ親しんだ公民館を選択した。この方が多くの参加を望めることが多い。後日、講演会の話題を博物館にて再確認する方が目立った。また、参加者への配慮として、今回の企画をやや専門家向けと一般向けの2本立てとした。10月5日の研究集会には、各方面から46名の参加があり、研究最前線に立つ発表者の話題提供と議論に会場は大いに盛り上がり、好評であった。10月26日の記念講演会は城郭研究の第一人者である中井均先生にご講演頂き、60名の参加があった。ポイントを絞った絶妙な話術に多くの方々が魅了されていた。

（下呂市教育委員会 馬場伸一郎）



第139回岐阜県博物館協会公開講座報告 鵜匠による「鵜飼の実演」「鵜飼の説明」

期 日：平成26年4月5日(土)
～平成27年3月29日(日) (全20回)
会 場：長良川うかいミュージアム

長良川うかいミュージアムでは、鵜飼のオフシーズンに、館内で年間48回にわたって鵜飼の実演・説明を行っています。これは、オフシーズンでも鵜飼を楽しめるよう実施されているものです。

去る1月25日には、長良川の鵜匠代表である山下純司さんによる「鵜飼の実演」がありました。はじめに鵜匠の仕事や鵜との関わりを自身の経験をふまえて説明があったのち、実際に鵜が魚をとる実演を行いました。

かつての鵜匠は、鵜飼のシーズンが終わると、鵜にエサを与えるために終日付近の川へ

放って好きなだけ魚を食べさせる仕事を一か月ほど行い、その後、鵜船の中で鵜と同居しながら木曾三川をまわり、養っていました。

長良川の鵜匠は、鵜飼のしかたを「鵜に教えてもらう」ために、日頃の世話を一生懸命行い、毎日全羽の鵜をなでて、手を介して鵜と「会話」をします。

会場には48人の観覧者が訪れ、山下さんのユーモアあふれる解説で笑いが絶えない講座となりました。

(岐阜市歴史博物館 吉田 晋右)



館・園紹介 No.156

OKBギャラリー おおがき

【所在地】 大垣共立銀行 大垣駅前支店西隣
〒503-0901 大垣市高屋町 1 丁目59番地
【事務局】 大垣共立銀行 総務部内
〒503-0887 大垣市郭町 3 丁目98番地
TEL: 0584-74-2111(代)
FAX: 0584-74-8069

「OKBギャラリー おおがき」は、

OKB 大垣共立銀行が、平成23年9月に地域の芸術文化の更なる発展を願って、大垣駅前に開設した展示スペースです。絵画や生け花などの作品を落ち着いた雰囲気の中で、ご鑑賞いただけます。

開館時間は10時から17時で、開催期間中の休館日はありません。なお入場無料です。

開設以来の展示企画は以下の通りです。

- ①大垣共立銀行所蔵絵画展
- ②大垣の日本画家 大橋翠石、坂井藍涯・青泉（父子）展
- ③新春展
- ④河童連邦共和国と大統領土屋斉の世界
- ⑤郷土が生んだ日本画家 土屋礼一展
- ⑥ジュニア水彩展
- ⑦大垣市景観遺産パネル写真展
- ⑧彫刻展
- ⑨新春絵画花展
- ⑩山の絵画展
- ⑪春から夏へのHarmony
第一楽章 対山悠々
- ⑫春から夏へのHarmony
第二楽章 女神たちの季節
- ⑬春から夏へのHarmony
第三楽章 水のある風景
- ⑭世界のポスター展
- ⑮ジュニア水彩展
- ⑯秋冬コレクション
- ⑰新春彩花展
- ⑱大橋翠石展
- ⑲静物画展
- ⑳土屋輝雄 土屋礼一 父子展
- ㉑大垣から福島へ 福島から大垣へ
そしてOKBから福島へ

開設以降、以上21企画の展示を行ってまいりましたが、来館者は累計2万人を超えました。

平成24年10月には、岐阜県から第101番目の「まちかど美術館・博物館」に認定されました。

展示の内容は、大垣共立銀行所蔵絵画をはじめ、他の美術館の保有作品も加えて、地元岐阜県・大垣市等との連携も大切にしております。

特に平成24年3月から7月に展示しました「河童連邦共和国と大統領土屋斉の世界」においては、河童の住む清らかな世界をジオラマで表現し、土屋斉名誉会長の書画を展示いたしましたところ、開催期間中3,688名の来館をいただきました。

平成26年7月現在の展示テーマは「大垣から福島へ 福島から大垣へ そしてOKBから福島へ」で、大垣東高校の生徒が仕掛け絵本を作り、ボランティアとして福島を慰問し、保育園児に読み聞かせを行ってきた3年間の活動と、そのお礼に送られた福島の子供たちの絵画、大垣共立銀行の土屋斉名誉会長の書「百折不撓」、東日本大震災の教訓を踏まえて商品開発された「手のひら認証ATM」「災害対策車レスキュー号」等をご紹介します。

今後とも、地域の芸術文化発展のため楽しい企画をしてゆく所存です。みなさま、どうぞよろしく申し上げます。

ポスターや「OKB 大垣共立銀行」の「手のひら認証ATM」の画面で、随時展示内容をご案内しております。

みなさまのご来館をお待ちしています！



(OKBギャラリーおおがき 坂井 啓之)